

門信徒だより

2020 4月下旬

和上 発

人類とコロナの恐怖に日々に我国も世界中も振り回され、一時も安心なき生活を送り、明日は我身の覚悟も痛々しい限りであります。

この様な中でありますだけに私達は淡い期待ながら、手洗いとマスクと三密の方法を案じ出して、これに対処しながら強い信念の行動が求められているのでした。

コロナ騒ぎでお便りも重なってきますので、これからは連がりある勧め方をしなければならぬと決心いたし筆を持つこととした中で、私は、ふと心に浮かぶ一つに弟子時代の事が思いだされるのですが、

これは門信徒の皆様方も同様と思うのですが現在の自分たらしめて下さったその最初は我ら聖人方にお会いして知らず知らずに聖人の人間的個性に引きつけられてきた事ではないでしょうか。

それは聖人ご自身の身口意しんくいの三業さんごうを通して私達の心に接し下さった大きな影響の力と思います。

或時、私に対し聖人は浄土に生る草の話をして下さいま

した。

道を歩いていると触るる草があって、その草に触れると何とも云いようのない楽しさ、心地よさ、さわやかさを感じて元気が出てくるのですと。

そして浄土論註（曇鸞大師が天親菩薩の論文、浄土論を註訳したもの）の文をお引きになりお教して下さったのです。

釈文は「宝性功德ノ草ハ柔軟ニシテ左右に施レリ、触ルル者ハ勝樂ヲ生ズルコト、カセリンダニ過ギタリ。コノ故ニ願ジテイワク、我国土ノ人天、六清水乳和シテニワカニ楚越ノ勞ヲ去ラシメント。ユエニ七宝柔軟ニシテ目ヲ悦バシメ身ニ便アリ。カセリンダトハ天竺ノ柔軟草ノ名ナリ。之ニ触ルル者、能ク樂受ヲ生ズ」と。

浄土論とは弥陀の浄土を説かれた内容で、浄土の国土の徳。浄土の法王の徳。法王に随従される菩薩の徳を説かれた内容で、今は国土の徳の「触功德成就」の文です。

我らの阿弥陀法王は無量寿功德を成就され、その国土を浄土と名づけられたは弥陀一仏のみで、諸仏の理性界にも望みはありしも成就されたとは申されず、生命活動を行っている者の窮極は最後、无量寿であり、国土を極楽と名付けたは一切の苦悩なく楽に極まりなき

が故^{ゆえ}なりで、これを一切衆生^{いっさいしゆじょう}の為に完成されたのですから諸仏^{さん}方は讚ずること限りなく、諸仏^{さん}方はご自分の法王^ほと讚^{わが}めあげて、我^{わが}国土もかくのごとく手本とせんとされたのでした。

今は浄土の莊嚴功德の「触」を取り上げたのですが、我^{わが}ら社会にも握手や挨拶で対面するとき言葉以上のものが伝わり、これが相手を信ずる心の手前の姿として存在しているのですから、聖人^{せいじん}ご自身の法徳^{ほうとく}が初めて会った人にも何か知らぬが、触^ふるるに気持がなごやかになり、やがて楽しくなる作用が現われて、更^{さら}に重ねるに従^{したが}って理屈なしに法^{ほう}を喜ぶ身になり、離そうとすれどもかなはず、何とも云えぬ法を喜ぶ心になるは法性功德^{ほっしょうくどく}の草^{くさ}のわざであるとお聞かせなのでした。

そして触功德^{しょくくどく}によりて仏^{ぶつ}の善巧方便^{ぜんぎょうほうべん}として二種の楽が現れて、一は染着楽^{せんちゃくらく}（原因不明の楽み）で何かしら、知らず知らず^{とうと}に尊くなり、知らずに有難くなり忘れられぬ状態が現れ、

二は法喜楽^{ほうきらく}が佛智^{ぶつち}の働きで我^{わが}ら心底より暖かく、喜びは増え、これが三世^{さんぜ}を通して感ずるのであります。

仏の善巧方便とは、如来聖人の御意志が我らの為に

がんしょうしん そくぜきみょうしん ほうぞうぼさつ がんしんしょうごんくどく やくぜほつがんえこう
願生心（即是歸命心の法蔵菩薩の願心莊嚴功德と亦是發願廻向
しん とも あんらっこく せっしゆふしや
心の衆生と共に安樂國に往生して攝取不捨しようとする心）と

現われ弥陀十八願心を無条件で与えたいばかりに幾度
も「其の名号」を聞かせてやりたやの御配慮を云ひ、
聖人の三業が我らに全能力、全智恵、全慈愛を一子を養
ひ育てる親心として向けられた結晶なのでした。

これら内容がほとんど無意識的に働かれて法を喜ぶ心の
土台となって下さるのでした。

言い方を換えますと、私達の心の作用が我と云う認識を
始めようとした時に生滅変化して止まない有為法の現象
世界を心の対境とした為に、真也実也の見方が固定され
て自我の認識作用を開始しましたので、これを無明生起
の原因と云い、我ら自我意識は無明の識心、無明の衆生
の出達をしたのでした。

釈迦仏はこの根本の迷いを破って永遠不滅の自我たらし
めんとして佛教をひらき転迷開悟の基本を喚ばれたので
した。

真宗ではこの有様を迷の衆生、我ら根本世界を教え、悟
りの衆生へ転ずる為の第一段落として仏教を素直に受け
入れる精神的安住、即ち宿善をひらこうとされたのでし
た。

これが前のしょくくどく触功德の活動によって徐々にまよひ迷の衆生のいつわ偽りの自己から真実の自己へ帰らせる心、即ち宿善をひらかせて求めさせようとされたのでした。

今日、真宗内でも宿善の言葉は知っていても我らの起す宗教心と曲解されて見向きもせず、誰人も見逃す現状かと思いますが、

みだほう弥陀法はきょうぼう釈迦の教法としてみょうごう名号を、みだだいじひ弥陀大慈悲としてこうみょう光明の二つを我ら衆生が悟りの宝を我物とするぶつ佛の功德力としてそうじよ総序にあらわ標し、にそん釈迦・弥陀二尊のちから智恵と大慈悲の力にてゆういん誘引されるほんがんにりき本願力と教えきたのでした。

このお便りはひごと厳しい日毎を重ねておられる皆様方に、このような我らをじょうごうふだん常恒不断に気を使われておられる聖人のおてもと御手許を少しでも知って欲しいと願って文面も正すこともせずにありますので、

どうぞお元気であり、又お会いできる機会が必ずあると信じて送らせていただいていますので、苦悩の中にあリましても明日に希望の光を眺め拝して下さい。

不 許 複 製

所有者 弘願真宗総本山聖玄寺法燈局

住所 福井県福井市羽水 1-303